

# 文学作品のハイパーテキスト化における評価方法の精緻化

## Literary Hypertext - Expression Form and Evaluation Method -Revisited

森田 均<sup>\*1</sup>  
MORITA Hitoshi

藤田米春<sup>\*2</sup>  
FUJITA Yoneharu

<sup>\*1</sup> 県立長崎シーボルト大学国際情報学部  
Department of Info-Media Studies, Siebold University of Nagasaki

<sup>\*2</sup> 大分大学工学部  
Faculty of Engineering, Oita University

We evaluated the hypertext by comparing it by using F-measure with other expression forms such as the picture books. And we modified evaluation method by a surface analysis of the original text. The expression forms were classified into three elements (text, graphics, sound). In the text category: The structure of the text was clarified by analyzing the translation work. Graphics: We investigated the relation between the text and the illustration. As a result, the technique to draw the illustration from the text can be derived. Sound: The pronunciations of a specific part in various readings were compared. To supplement a literary research, these results can be used..

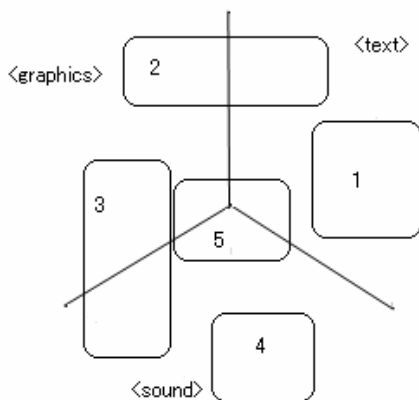
### 1. はじめに

我々は既に従来の研究[森田・藤田 01]に基づき,[阿部・他 94] 及び[Hobbs 85]を発展させて, 原テキストの論理構造と修辞の構造を明らかにすることによって, 小説をハイパーテキストへ変換する手法を示した。試作の評価は, 精度と再現率を要約する F 値を指標として他の表現形態との比較によって行ない文学のデザインとも言うべき研究を展望した [森田・藤田 03]。本研究は, その際に展望した評価の精緻化へ挑むものである。

### 2. メディア比較

#### 2.1 比較対象の範囲

本研究における試作ハイパーテキストは, 宮沢賢治作「注目の多い料理店」を原テキストとするもので, 変換手法等は上掲論文に記している。



< 図1: 表現手段による構成要素とその相関 >

本論文では, ハイパーテキストと比較する他の表現形態として, 原作初版本以来国内外で公表・公開された当該タイトルに

連絡先: 県立長崎シーボルト大学国際情報学部情報メディア  
学科, 〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-  
1, Tel: 095-813-5105, morita@sun.ac.jp

よる作品を網羅的に収集調査した。資料収集のために, 国立国会図書館目録 (NDL-OPAC), 国際子ども図書館児童書総合目録, 大阪府立国際児童文学館蔵書目録等のオンライン目録の他に[畠山 94], [宮沢賢治イーハトーブ館 95], [宮沢賢治学会 91-03], [中西 99]に依拠し, 映像作品については[田中 79], [渡辺 96]を使用した。研究の性質上, 目録情報を抽出するのみではなく作品の現物にあたり「注目の多い料理店」が収録された同名の童話集初版本(1924年)以来 2003年末に至るまでに公表・公開された総数 230 点の分析作業を行った。

比較対象の表現手段における特性は, テキスト・画像・音声の3要素に基づいて以下のように分類することができる。

- テキスト 作品集, 全集 …………… 1
- テキスト+ 画像 翻案絵本, 絵本, コミック … 2
- 画像+ 音声 アニメ …………… 3
- 音声 朗読 …………… 4
- テキスト+ 画像+ 音声 インタラクティブ絵本 …… 5

図1にこれらをまとめて相関を表した。なお, 脚本と紙芝居に関しては, オーディエンスとしてまたは演者としてにより, 3要素の構成が交代することになる。また, 「5」と分類したものは, 実例としては存在するものの現状ではノベルゲーム等に変化しており, むしろ新たな表現手段を模索するための仮説として位置づけておくべきものである。

テキストに関しては, 原作から同一言語による翻案, 異なる言語への翻訳という変容が存在する。この他に, 文・登場人物・時間順序の変更・追加・省略が行われている。

#### 2.2 表層的文学研究の可能性

従来の文学研究では, 作家・作品論にしても, 様々な文学理論に依拠した解釈方法の列記にしても, 突き詰めればテキストの新たな「読み」を提供することが最大の目標であった。

本研究は, ハイパーテキストと従来の表現方法による作品とを修辞の面から比較する手法を模索し, 比較対象として様々な表現形態を取る作品を網羅的に調査し内容分析を行ったが, 予備調査の結果「注目の多い料理店」は, 絵本の出版点数が多くコミックやアニメも制作されていることから多様な表現手法を比較する目的に合致しており, なおかつ著作権の保護期間が満了していることから電子化後に成果の公開が可能であることが判明した。

引き続き網羅的な資料の収集により「注目の多い料理店」の受容史にも寄与することが可能と思われる成果を得た。本研

究では詳述することはできないが、受容史に関しては[秋枝 86]を、また GHQ による検閲問題に関しては[谷 03]を補完することができる。

本研究の立場は、あくまでも表層的な検討を行うことにある。表層的な研究によってこれまで示された様々な研究成果を補うことにもなり、新たな視点を提供することができる。

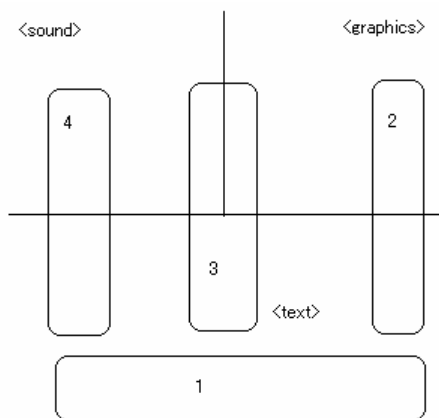
### 3. 評価の精緻化

#### 3.1 テキスト中心主義

最近の文学理論においては、テキストに関する考え方として二つの潮流が存在する。

- 「作品からテキストへ」…作者を排除することによって伝記的事実等を捨象した。
- テキスト概念の拡張…イベントや興行などもテキストに含めるという考え方。文字通りのテキストのみならず、広義の語る行為を最大限テキストとして位置付ける。

両者は背反するものではない。



<図2:再構成した各表現手法の相関>

こうした理論に基づき、様々な表現形態を考察するにあたっては、表現手段が画像や音声によるものであっても、いったんテキストに還元するという手法が考えられる。絵本、朗読、アニメともに原テキストの変形であり、テキストを出発点と位置づけることができる。この考え方によって図1を改めると図2のようになる。

以下では、テキストを中心にして様々な表現形態の考察を行うことによって、評価の精緻化に迫る試みを示す。

#### 3.2 翻訳

宮沢賢治作品の翻訳に関する研究としては、[モリタ 88]や[佐藤 88]があるが、双方ともに訳文の仔細を検討するものではなく、翻訳テキストが多数発表された 1990 年代のデータを含んでいない。一方で原テキストで使用された言葉を丹念に検討し音読までも考慮した訳文が[谷川 85]では示され、その後母語の相違などをキーとした研究が行われている。本研究では、訳文の妥当性を問題にするのではなく、あくまでも表層的な検討を行った。原テキストには、導入部と結末部分の 2 箇所以下のような全く同じ文章が出現している。

「風がどうと吹いてきて、草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごんごんと鳴りました。」

この文章をどのように翻訳しているのか、入手可能であり筆者らが直接判断可能な言語に限り実際に比較した。翻訳の存

在が判明していながら本研究では除外したものには、インドネシア語・ネパール語・ベンガル語・マラヤラム語である。検討した言語は、イタリア語・英語・エスペラント・ハングル(一部)・ギリシア語・スペイン語・中国語(一部)・ドイツ語・フランス語・ロシア語による翻訳である(末尾表1参照)。翻訳点数が最も多いのは英語で 11 点7種類があるが、本研究で検討の指標とした 2 箇所を同一の訳文としているのは、完全一致が 1 点、一致していながら他の単語を追加しているものが 2 点であった。これに対して 5 点 5 種類の翻訳があるフランス語は、完全一致が 4 点となっている。一致していない 1 点も同一の翻訳者によって後に完全一致の訳文に改められている。フランス語から原テキストを解析する視点は、[Lévy 97]が実際の訳文に先立つ論考として提供されている。言語によっては、同一語句の繰り返しを嫌うものではあるが、指標はテキストの構造を明らかにするために重要な役割を担っている。本研究では試作にあたって同一語句や文章の繰り返しをテキスト変換における手がかりとしている。翻訳というテキスト変換においても同様のアプローチがあることが判明した。

#### 3.3 イラストを「読む」

[長谷川 90]は、同じ宮沢賢治による「セロ弾きのゴーシュ」に関して絵本に描かれたチェロの形状について分析検討している。また[塚本 01]は、読者がどのようなイラストを好むのか「注文の多い料理店」の絵本を例示して調査を行っている。さらに[酒井 02]は、イラストにおける扉の描き方と登場人物の画像化に関して絵本を分析している。

「[ことに太ったおかたや若いおかたは、大歓迎いたします。]

二人は大歓迎というので、もう大よろこびです。

「君、ぼくらは大歓迎にあたってののだ。」

「ぼくらは両方兼ねてるから。」

このテキストからイラストを作成するにあたって、キャラクターとしての「紳士」の風貌を「太っている」、「若い」とするわけだが、二人ともに双方の要件を具備させるか、一方をどちらかの要件で際立たせるか画家によって違いがある。[酒井 02]はこれを手がかりにして画家によるテキスト解釈の相違を検討している。同じ検討は対象とする絵本の幅を広げて[森田・藤田 03]でも行ったが、かえて画家の恣意性を明らかにするばかりであった。

そこで本研究ではイラストとテキストの関係をより詳細に検討した。具体的には、原テキスト中の名詞に対応する構成要素がイラストに描かれているか調査した。対象は本研究によって存在が確認された 14 点の絵本(末尾表2参照)であり、原テキストから画像化される際の傾向を把握することとした。

明らかになったのは以下の点である。

- 全ての絵本で画像化されているテキストが3文あった。  
「二人の若い紳士が、すっかりイギリスの兵隊のかたちをして、ぴかぴかする鉄砲をかついで、白熊のような犬を二匹つれて、だいぶ山奥の、木の葉のかさかさしたとこを、こんなことを言いながら、あるいておりました。」  
「ずんずん廊下を進んで行きますと、こんどは水いろのペンキ塗りの扉がありました。」  
「奥の方にはまだ一枚扉があって、大きなかぎ穴が二つつき、銀いろのホークとナイフの形が切りだしてあって、」
- イラストは見開き頁で分割されたテキスト内の要件によって描かれている。
- 7点以上の絵本でイラストに対応する文を連結するとテキスト全体の要約を得ることができる。

後二者から、画像化は画家によるテキスト解釈であることが再確認された。しかも恣意性は排除されていると考えられる。

### 3.4 音声データ

#### 朗読

[杉藤 96]は、文学作品を音声によって豊かに表現することが朗読であるとして、ポーズやリズム、アクセントについて表現する手法に結びつく分析を行っている。原テキストと朗読の関係を分析する際には、朗読者によって異なるポーズを比較することが考えられる。本研究でも予備実験として波形分析を行ったが、息継ぎ等朗読者の肉体的特性による差異があるためか、有意な傾向を得ることはできなかった。そこで、ここでも表層的なテキスト分析から音声データの検討を行った。

原テキストは、以下のような書き出しとなっている。

「二人の若い紳士が、すっかりイギリスの兵隊のかたちをして、ぴかぴかする鉄砲をかついで、白熊のような犬を二匹つれて、だいが山奥の、木の葉のかさかさしたとこを、こんなことを言いながら、あるいておりました。」

この中の「木の葉」には刊本によって「きのは」と「このは」という2種類の異なるルビが振られている。朗読ではそれがどのようになっているのか、検討した。原テキストの朗読が初の録音資料としてアナログ・レコードで公表されたのは1971年であった。以降2003年末までにカセットテープやCDによって、またVHSビデオによる映像を伴う朗読を含めると計26点22種類の朗読がある。このうち2点は翻案であり、外国語の2点もあるので、原テキストに対応するのは18種類である(末尾表3参照)。その中で「きのは」と発音しているのが9、「このは」も9であった。

ルビが明記されている刊本は、原テキストと同名の童話集(1924年)以降は、校本全集(1973年)まで確認できていない。また、新修全集(1979年)ではルビが外されており、新校本(1996年)でルビが戻っている。1997年以降の朗読は、1点を除き「きのは」と発音している。従って発音の揺れは、朗読の際に依拠した全集テキストによる影響が一因と考えられる。

ただ、学校文法と原テキスト校訂の間には明らかな矛盾がある。原テキストは、小学校5年生の国語教科書に採録されている。教科書にルビは振られていないが、教師用資料のCDに収録された朗読は「このは」と発音している。

## 4. まとめと展望

### 4.1 考察

翻訳を検証することで明らかになったテキストの構造は、論理構造の検証を補った。また、イラストとテキストを参照することによって、比較対象としての絵本においては画家の恣意性によるものではなく正当なテキスト解釈による画像化が行われていることを明らかにした。今回の精緻化は、手法そのものに変更を迫るものではなく、比較対象の資料的価値を高めることで、様々な表現手段の特性が明らかになり、結果として試作ハイパーテキストを評価する手法の信頼性を向上させるものであった。

本研究の成果から派生するものとして、従来の文学研究へ寄与するものがあることは既に述べたが、以下には展望を示す。

### 4.2 フローティング・ハイパーテキスト

テキストをめぐる考え方からも導き出される手法として、本研究の次の段階では、原テキストからどれだけ離れることができるのか、またどのような変容が可能なのかを探る必要がある。これまでのメディア比較やメディア変換の手法では、原テキストを起点としていた。これは、生原稿や初版本を重視する従来の文献学的研究と同根のものである。そこで、ハイパーテキストを全ての比較の基準とする考え方をを用いる。

#### 朗読

原テキスト 刊本 映像化

絵本

<従来の考え方>

朗読

原テキスト ハイパーテキスト 刊本

絵本

<フローティング・ハイパーテキスト>

これは、テキストの起点をどこにするかという問題を提起することになる。オリジナルを求めめるのではなく、「変換」の可能性を徹底して探ることになる。

そのためにまず、テキストから流布されたものの痕跡を探る。従来の文学研究と一線を画するために、深層に立ち入ることを最大限避けあくまで表層からのアプローチを貫くことになる。

### 4.3 「理論」へ

本研究は、小説のハイパーテキスト化というテーマから出発したが、評価方法を検討するうちに従来の文学研究による成果にまで言及することとなった。他に知的財産権の問題や出版史をはじめとする社会科学分野に関連する記述も必要となっている。こうした学際的なアプローチは、カルチュラル・スタディーズ等でも話題となる「理論(theory)」へと向かうものである。「文学理論」ではなく、理論とは、

- 学際的である。
- 分析的で思弁的である。
- 常識を批判する。
- 言説の実践において再考を促すものである。[Culler 97]

本研究は、平成15~17年度文部科学省科学研究費補助金(課題番号:15653034)による研究の成果の一部である。

### 参考文献

- [阿部・他 94] 阿部純一・桃内佳雄・金子康朗・李光五: 人間の言語情報処理, サイエンス社, 1994.
- [秋枝 86] 秋枝美保: <テキスト評釈> 注文の多い料理店, 国文学 31 (6), 學燈社, 1986.
- [Culler 97] J. Culler: Literary Theory, Oxford University Press, 1997.
- [長谷川 90] 長谷川集平: ゴーシュのチェロは描けているか?, Pee Boo 2, ブックローン出版, 1990.
- [Hobbs 85] J. R. Hobbs: On the Coherence and Structure of Discourse, CSLI Report No. CSLI-85-37, CSLI, 1985.
- [Lévy 97] Jacques Lévy: 「注文の多い料理店」における可逆性, 明治学院論叢第599号, 1997.
- [宮沢賢治イーハトーブ館 95] 宮沢賢治学会: 宮沢賢治作品・研究図書資料目録, 宮沢賢治イーハトーブ館, 1995.
- [宮沢賢治学会 91-03] 宮沢賢治学会: 宮沢賢治ビブリオグラフィ・同ディスコグラフィ, 宮沢賢治研究 Annual vol.1-13, 宮沢賢治学会イーハトーブセンター, 1991-2003.

- [森田・藤田 01] 森田均・藤田米春: ハイパーテキスト文学論, 認知科学 8(4), 日本認知科学会, 2001.
- [森田・藤田 03] 森田均・藤田米春: 小説の表現形態に関するハイパーテキストを指標とした評価方法の検討, 人工知能学会全国大会(第17回)発表論文集, 2003.
- [モリタ 88] ジェイムズ・R・モリタ: 宮沢賢治作品の翻訳と研究の歴史, 賢治奏鳴, 有精堂, 1988.
- [中西 99] 中西敏夫・編: データベース宮沢賢治の世界, 出版文化研究会, 1999.
- [酒井 02] 酒井晶代: 描かれた<作品論>を読む, 子どもの文化を学ぶ人のために, 世界思想社, 2002.
- [佐藤 88] 佐藤栄二: 海を渡った賢治の童話, 日本児童文学 12号, 日本児童文学者協会・編 教育出版センター, 1988.
- [杉藤 96] 杉藤美代子: 声にだして読もう!, 明治書院, 1996.
- [田中 79] 田中純一郎: 日本教育映画発達史, 蝸牛社, 1979.
- [谷 03] 谷暎子: 占領下の検閲と賢治童話, 宮沢賢治学会イートーブセンター第13回研究発表会記録集, 2003.
- [谷川 85] 谷川雁: 賢治初期童話考, 潮出版社, 1985.
- [塚本 01] 塚本美智子: 『注文の多い料理店』の受容とイラストレーションに関する一考察, 言語表現研究 17, 兵庫教育大学言語表現学会, 2001.
- [渡辺 96] 渡辺泰: 賢治映像全データ, 宮沢賢治の映像世界, キネマ旬報社, 1996.

絵画作者	シリーズ名または掲載書籍	出版社	出版年
朝倉摂	日本の名作	講談社	1971
小沢良吉	チャイルド絵本館 日本の名作 8	チャイルド本社	1982
島田睦子	日本の童話名作選	偕成社	1984
三浦幸子	宮澤賢治絵本シリーズ(2)	福武書店	1984
池田浩彰	宮沢賢治どうわえほん	講談社	1985
スズキコージ	ミキハウスの絵本	ミキハウス	1987
おぼまこと	日本の名作童話	世界文化社	1988
宮本忠夫	チャイルド絵本館 日本の名作 12	チャイルド本社	1989
森本三郎	宮沢賢治童話	たくみ書房	1989
小林敏也	画本宮澤賢治	バロル舎	1989
本橋英正	山賊版	源流社	1989
黒井健	日本おはなし名作全集 12	小学館	1989
杉浦範茂	講談社のおはなし絵本館 9	講談社	1990
高野玲子	日本名作絵本 22	TBS ブリタニカ	1993

<表2: 比較対象とした絵本>

言語	指標	訳者	出版年
イタリア語	C	Giorgio Amitrano	1994
英語	B	John Bester	1967
英語	A'	Masako Ohnuki	1969
英語	B	John Bester	1972
英語	A'	Sachiko Ohi & Yukiko Sekiguchi	1991
英語	D	エム ジェイ ケイ	1993
英語	A	Roger Pulvers	1998
英語	C	Karen Colligan-Taylor	2002
エスペラント	A	野島安太郎	1991
韓国語	A'	Juwhan Liu(柳 朱桓)	2001
ギリシア語	A'	MAPIA APITYPAKH	1999
スペイン語	C	Elena Gallego Andrada	2000
中国語	A'	騰瑞	1994
ドイツ語	B	Johanna Fischer	1980
フランス語	B	Gabriel Mehrenberger	1984
フランス語	A	Françoise Lecoœur	1990
フランス語	A	Gabriel Mehrenberger	1995
フランス語	A	Jacques Lévy	1997
フランス語	A	Helene Morita	1998
ロシア語	A	Шпирезданова, Виктория	不詳

<表1: 翻訳>

朗読	収録盤等の題名	出版社	出版年	指標
米倉齊加年	『宮沢賢治童話集』の付録レコード	中央公論社	1971	このは
滝田裕介	怪談傑作集1(最初期版編成のカセット)	東芝 EMI	1983	このは
長岡輝子	長岡輝子, 宮沢賢治を読む第1巻(カセットブック)	草思社	1987	きのは
加藤剛	新潮カセットブック 33	新潮社	1987	このは
池水通洋	朗読ライブラリー宮沢賢治作品集 第2巻	東京エーヴィセンター	1989	このは
渡辺小百合	児童文学カセットブック 2	リブリオ出版	1989	このは
名古屋章	カセット版日本おはなし名作全集 12	小学館	1989	きのは
久米明	ビデオ文学館 12	毎日 EVR システム	1990	きのは
長岡輝子	長岡輝子, 宮沢賢治を読む第1巻(CDブック)	草思社	1991	きのは
サウンド・ドラマ	新児童文学の世界第1集 5	バンダイ ME	1992	きのは
サウンド・ドラマ	日本名作絵本 CD14	TBS ブリタニカ	1993	このは
柄本明	宮沢賢治の世界 4	東芝 EMI	1996	このは
風間杜夫	画本宮沢賢治 CD-ROM	ジャストシステム	1996	このは
千葉裕子	名作ビデオ絵本 15	毎日 EVR システム	1998	きのは
江守徹	Sounds in Kiddyland (Series 27)	ラボ教育センター	1998	きのは
篠原大作	別冊太陽 112 読み語り絵本 100 付録 CD	平凡社	2001	きのは
長岡輝子	宮沢賢治の魅力1 注文の多い料理店	キングレコード	2001	きのは
小林恭治	みんなと学ぶ小学校国語5年教師用指導書	学校図書	2002	このは

<表3: 朗読>